

## 自宅UR「リニューアル」

昔「追分」いま「星ヶ丘」のレポートは、珍しく好評だった。「ご当地」シリーズだ。公団、いまはURと呼ぶ「アーバンラフレ星ヶ丘」に住んで20年余り。団地建て替えの最初の頃だ。25階の高層住宅など、新しい賃貸住宅がどんどん増えていった。そんな新旧交代を眺めながら、星ヶ丘での「団地住まい」を過ごしてきた。

団地「リニューアル作戦」が今年の今頃から始まり、先月末でおおむね完了した。写真は昨夏のわが家のある8号棟正面。黒いシートですっぽりと覆われている。こんなブラック状態が数ヶ月も続いた。外からは黒いが、中からはそれほどでもない。自宅前の廊下や階段なので、暗さと騒音が気になった。



とりわけ問題だったのはベランダ側だ。足場が組み立てられ、その前に黒いシートが張られた。作業をする人が足場を行ったり来たり。戸締り器具も配られた。壁面ペンキ塗りやシート張替などでは、「自宅待機」も何回かあった。ベランダ側の窓が開けられない時には、猛暑のなかで、とにかく大変だった。

こんな「苦労」より、ベランダからの朝夕の眺望、朝日と夕日を楽しめないのが残念だった。でも足場の間から輝く夕日を写真に撮ったこともある。夕日に続く暗い写真は、早朝ベランダから向かいのマンションを撮ったものだ。1976年完成17階建て176戸の



虹ヶ丘マンションだ。いまから40年も前に建てられた大規模マンション。入居した時から、わが家の前にマンションはでんと構えていた。

早朝の写真で注目してもらいたいの、マンション屋上あたりのカラスの大群である。ここは朝、カラスが平和公園の方から東山公園の方に飛んでいく「休憩」地点のようだ。とにかく百羽以上のカラスがカーカーと叫び飛び回っていた。まるでヒッチコック監督「鳥」を思わせた。今年になると、カラスはとんと姿を見せない。カラスに聞きたいが、「カラスの勝手でしょ」と言われそうなので、やめておこう。

カラス話になってしまったが、「アーバンラフレ星ヶ丘」はリニューアル作戦により、景観は見違えるようになった。数年前まで空家が目立ったが、それも解消されつつある。若い世代の入居が多くなり、子どもたちの遊ぶ姿が目につく。団地リニューアルの「効果」なのだろうか。



(2017年6月25日)